

麦栽培情報

【ファイバースノウ・はねうまもち・福井県大3号】

No.1

JA福井県
【福井基幹支店】

- 麦の収量は、適正播種(播種時の土壌水分)で決まる！！
- 稲刈り直後からの排水対策！！(圃場準備が重要)



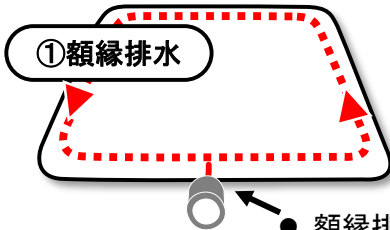
早めに「溝掘り」や「補助暗渠」を行い、圃場を乾かしましょう。「溝掘り」の目的＝「雨水が地面にしみ込む前に圃場外に流し去る」そのため、「排水口側」が「水口側」よりも低くなるように溝を掘ります。

(排水不良の原因)

- 機械作業の効率を優先(中溝の施工不足)
- 圃場の排水性を過信(中溝・補助暗渠の施工不足)

■ 想定外の降雨に耐える、圃場づくり。
ポイントは表面排水(雨水を速やかに排水させる)

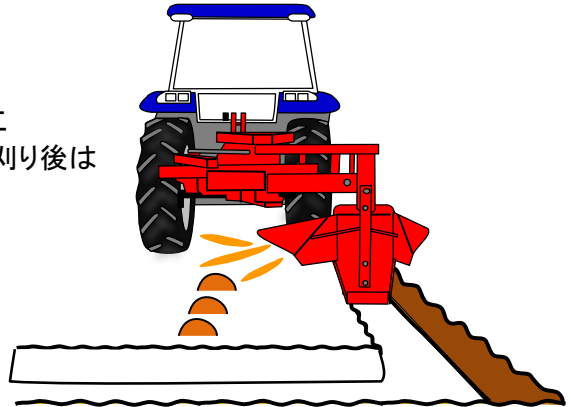
排水対策のポイント



額縁(圃場周囲)排水溝の施工

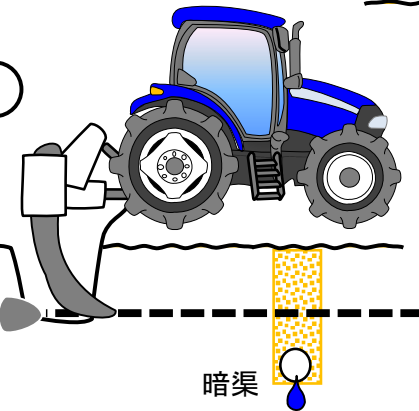
- 圃場の状態を確認し、稲刈り後は早めに設置する。
- 深さ: 25~30cm

● 額縁排水溝の施工後は、速やかに排水口に接続する。



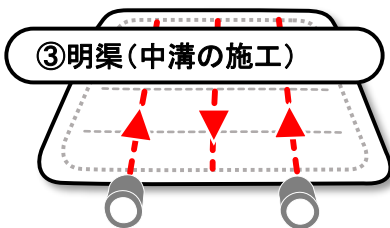
②補助暗渠(サブソイラ施工)

- 額縁排水溝を掘った後、排水溝底から引くように施工する。



心土破碎: 本暗渠に対して直交方向だけでなく、斜め方向にも設置することで、さらに排水効果が高まります。

- 施工間隔 : 通常2~4m。排水が悪い圃場は、1.5~2mと狭くする。
- 施工深さ : 25~30cm

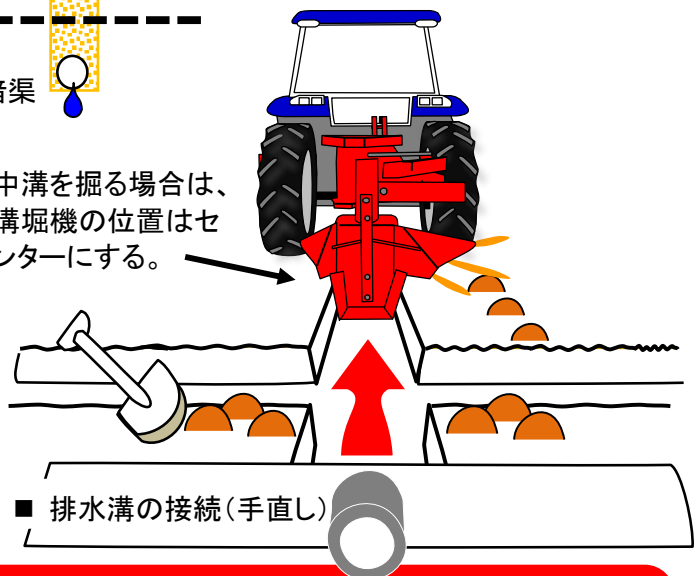


③明渠(中溝の施工)

圃場内排水溝の施工

- 深さ : 25~30cm。
- 中溝間隔 : 5~30m。圃場条件、麦の播種作業に応じて設定する。(排水が悪い圃場は、播種1往復の間隔で中溝を施工)
- 排水口からは、必ず中溝を施工する。

- 中溝を掘る場合は、溝掘機の位置はセンターにする。



■ 排水溝の接続(手直し)

排水対策で収量アップを目指しましょう。今回の「麦栽培情報」は永平寺支店が担当しました。